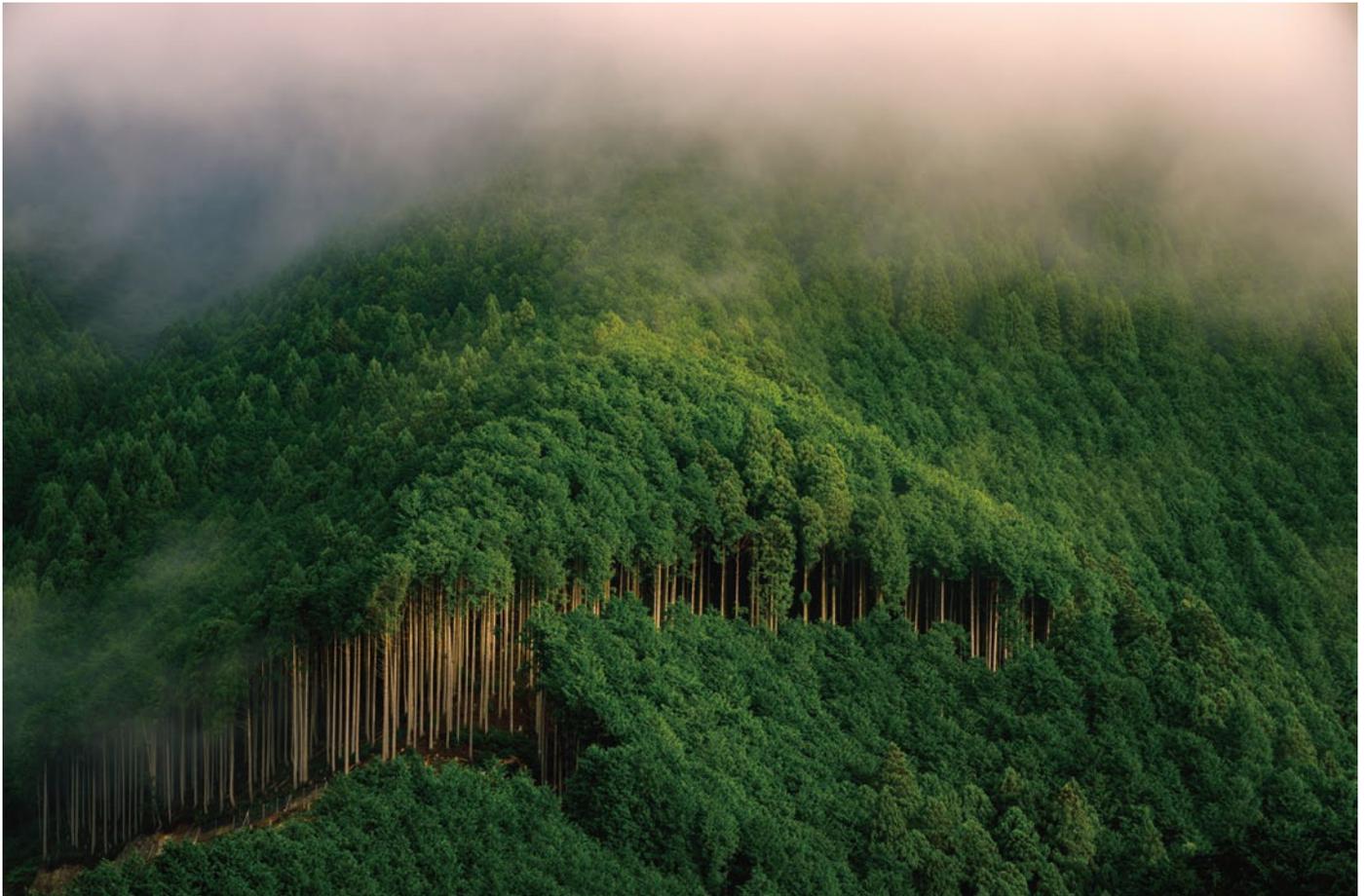


森林を守り、育て、活かし、豊かな森を未来に引き継ごう



■表紙写真 題名：「森林の目覚め」 撮影地：富士宮市麓 ふもとっぱらキャンプ場 撮影者：浅井 貴章（磐田市）

本誌のバックナンバーは、静岡県山林協会ホームページでご覧いただけます。
ホームページには、林業への就業を考えている方の参考になる記事も掲載しています。

URL：<https://www.moritohito.jp>



INDEX

23 事業体等紹介 No.21（株式会社 玉川きこり社）
きこり×クリエイティブで、山と街を繋ぐ

4 支部だより①（伊豆市 産業部 農林水産課）
・鳥獣被害と森林
・森林環境税を活用した木材利用の取組み

5 支部だより②（浜松市 林業振興課）
森林価値の最大化を目指して
～天竜美林カーボンクレジット創出モデル事業～

6 県庁だより（くらし・環境部 環境局 環境ふれあい課）
生物多様性保全の推進

7 本部情報
県への要請活動
林業雇用改善セミナーの開催

8 本部情報
林業への就業支援の取組

事業紹介

● No.21

きこり × クリエイティブで、 山と街を繋ぐ

株式会社 玉川きこり社

林業事業体であるが既存の林業の枠に囚われない活動を行っている企業があります。起業10年目を迎える株式会社玉川きこり社です。本年度5月より認定事業体に認定され、また新たな取組に挑戦し始めていると聞き、代表である繁田浩嗣氏を訪ねました。



▲代表の繁田氏



▲カフェの内装デザイン施工例

事業体概要

株式会社玉川きこり社は静岡市の玉川地区を主な活動エリアとし、2014年3月に創業。現在は現場作業員7名で、1班が素材生産、もう1班が特殊伐採を中心に行う2班体制です。玉川の有力な山主さんから素材生産を請け負っており、昨年の出材量は1,800立米ほどでした。その他、組合や他の林業事業体から下請けとして仕事を請け負っています。重機は所有しておらず、山主さんの所有するもの、またはリースで作業。間伐が主となりますが、小規模な皆伐を行うこともあります。また、デザインや建築関係、木材流通の仕事も繁田氏と社員1名で行っており、林



▲特殊伐採

業を主軸としながら川下分野にも携わっている点が特徴的な企業です。

起業の経緯

そもそも林業を始め、起業に至ったきっかけを伺いました。親戚を訪ねて、子供の頃から玉川に遊びに来ていたという繁田氏。玉川は素敵なお場所だと感じていたと言います。その後社会人になり、玉川をフィールドに山村体験イベントなどを行う市民サークルに出会って参加し始めます。5年程活動する中で、2,000人も来場者を集めたイベントを行うなど、団体の活動は盛り上がりました。しかし、団体の活動で玉川に遊びに来る人が増えても、玉川の住人は毎年50人ずつ減っている現実と直面します。「自然と共生する生き方がこのまま途絶えてしまうのは良くない。ここで生業をやって、それを止めることはできないかと思ったのが原点です」と繁田氏。

玉川は林業が盛んな村だったこともあり、林業をまた今の時代に合った形

で提供できれば玉川に再び人が増えるのではないかと考え、林業に足を踏み入れます。玉川の親方の元で学んだ後、仲間と共同で玉川きこり社を立ち上げました。前職は出版業界という、全くの異業種からの挑戦でした。そこから、少しずつ社員も増え、10年目を迎えました。

新たな挑戦

将来的には今まで手がつけられて来なかった小規模面積や急峻な山などの作業も行いたいという思いがあり、自社による集約化、経営計画、補助金申請など一連の動きもできる様にしていくことを目指しています。そのビジョンに向けた第1歩として、本年度から組織力向上研修による簡易架線作業を学び始めました。取材時にはスイングヤードによる小規模皆伐を行っており、現場を拝見しました。下で丸太にワイヤーを付ける人1人、上でスイングヤードを操作し、丸太からワイヤーを外す人1人、その丸太をプロセッサで造材する人1人の3人体制でした。今後3年程かけて、架線の技術を習得していく予定です。



▲スイングヤードによる集材

班長の篠崎祐介さんにお話を伺いました。篠崎さんは林業を始めてまだ4年で、この現場で初めての班長を任されました。実家の家業が材木業で、子供の頃から木に触れる機会は多く、木に対する思いはあったものの他業界

へ就職。しかし、再び家業について考え始めた時にInstagramで玉川きり社の求人を見つけ、静岡市内で林業が行われていることに驚き、興味を持ったことがきっかけでした。初めての班長、初めての架線、班長としては大変なことも多いはず。「本当に初めて尽くしの現場で、ワイヤーを編むところからのスタートでした。安全を第一に、チーム全員が新しい技術を同じレベルまで習得できる様にしたいと思います。来年以降は、自分たちで施業計画を立て、誰もが線を張れることを目標に取り組んでいます。」と前向きなお話が聞けました。



▲班長の篠崎氏

実際、篠崎さん発案で、現場終わりに毎回15分、その日の作業について振り返りのミーティングを行い始めたそうです。「やりたいということに対して、まずは挑戦させてくれる気風の会社だと思います。」と篠崎さんが話す様に、会社が若い分、自分たちで考えて工夫していこうという姿勢が見受けられました。安全面についても「ベテランがいないので、誰かが教えてくれる、誰かがやってくれるという環境ではない分、社員一人一人が自分で考えようという意識が強いです。だからこそ、皆が必要以上に安全に気をつけることができているかもしれません。」と繁田氏。組織が若いことは弱い面もありますが、その分を補うだけの気力があつたから生き残って来られたのでしょう。しかし、ここからさらに飛躍していくためには、外から教えて

もらう必要があると感じ、今年から緑の雇用や組織力向上研修の活用を始められました。さらなる進化に期待したいところです。



▲研修の様子



▲研修の様子

川下の取り組み

木の出口の事業にも取り組む中で、ヨキカグという活動に参加しています。ヨキカグは、林業家、家具工房、製材業、デザイナー、大学教授などの企業が参加する団体で、「静岡の広葉樹」を活用して家具を作る活動を行っています。「林業を始めると、根元の部分など捨てる場所が多いことに驚きました。勿体無いなど。全部は無理でも、少しでも活用できないかという思いがあって、ヨキカグに参加しています。」

静岡は家具の産地ですが、地元の木での家具作りは行って来なかった歴史があります。しかし、家具に使用される様な広葉樹は世界的にも枯渇してきており、天然林の伐採を推し進めることは時代に逆行していることでもあります。それならば支障木や街路樹など、伐採しなければならなかった木を家具に活かそう、少しくらい細くても、樹種が揃わなくても、それのできる

ことを考えよう、そんな思いに賛同した企業が集まっています。現在、ヨキカグ市場(マーケット)をLINEにて試験運用中とのこと。木の情報を共有し、山側と製材や家具といった木の使い手側を繋げる場作りをしています。試験運用で問題が無ければ参加者を広げていくとのこと。今後の展開に期待したいところです。



▲ヨキカグで製作したスツール

未来への想い

繁田氏に将来像について伺いました。「山づくりは世代を超えていかなければならないものです。良い山づくりを玉川でやり続けていけるようになることに使命感を感じています。」事業体としてはまだまだ未熟なため、まずは一代かけて技術を習得し、経験値を蓄え、何らかの形で未来に繋いでいけたらと考えていると言います。それは、技術や精神性を次世代に繋いでいくことを意味し、単に事業体の後継者を育成するというのではないのかもしれませんが。

玉川きり社の理念は“山っていいな。”です。「山本来は価値があります。木が安いのは、時代のニーズに合っていないからではないでしょうか?山の切り口を変え、時代に合っていればそこに価値が生まれ、経済性もついてくるはず。その山に対するディレクションを模索していきたいです。」そう話してくれました。まだまだ道半ばの事業体が、今後どの様に成長していくのかを期待したいと思います。

支部 だより①

- ・鳥獣被害対策と森林
- ・森林環境税を活用した木材利用の取組み

伊豆市 産業部 農林水産課

鳥獣被害対策や森林整備、地元産木材利用の取組について紹介いただきました。

鳥獣被害の現状

伊豆地域のニホンジカの適正生息頭数は4,600頭とされていますが、現在、約23,400～36,100頭が生息していると推定されています。増えすぎたニホンジカによる市内農林産物への被害は令和5年度で1,700万円ですが、こうした数字には表れない被害として、スギやヒノキといった樹木の樹皮剥ぎや獣道による土砂流出の被害があります。

樹皮剥ぎによる変色で木材の価値が低下し、樹木枯死による生物多様性の低下、また森林の持つ水源涵養機能の低下が懸念されます。



▲ニホンジカによる樹皮剥ぎ

鳥獣被害対策

こうした被害を防止するため、市では防護柵設置への助成や有害鳥獣捕獲を積極的に進めています。

特に、捕獲した個体を有効活用できるように全国的にも珍しい公設公営によるジビエ処理加工施設『イズシカ問屋』の運営を行っています。

狩猟者から捕獲したニホンジカを買い取って捕獲意欲の増進を図るとともに、いただいた命を最大限有効に活

用させていただいています。

『食べて守る、森のみらい』を達成するため、今後も邁進してまいります。



▲ジビエ処理加工

伊豆市の森林

市全体面積36,397ha、内森林面積29,995haを占める伊豆市は、この広大で豊かな森林を利用し様々な活用、活動に取り組んでいます。「伐採」→「利用」→「植樹」→「育樹」を継続的に行う事により、林地の災害防止機能向



▲主伐再造林地の獣害対策

上、ゼロカーボン社会の実現を目指しています。

木材利用の取組み

伊豆市は森林環境譲与税を活用し、積極的に木材利用の取組みを行っています。

本年度供用開始した伊豆市リサイクルセンター事務所棟には、市内製材業者が製材加工した伊豆市産ヒノキの羽目板を会議室、廊下の内壁に使用しています。調湿効果、断熱性、香りなど、利用者から高い評価を頂いています。



▲伊豆市リサイクルセンター会議室

令和7年4月開校に向け建設中の「伊豆中学校」の天井、下駄箱、窓枠サッシに伊豆市産材ヒノキを使用しています。木材の香りや質感から得られる、リラックス効果、ストレス軽減、集中力を高めるなど、精神的な効果が期待出来ます。



▲伊豆中学校（教室）

その他、伊豆市産木材を利用する市内製材業者及び市内建築業者への補助制度など、地産地消を目指し、市民が地元の木に触れる機会を増やすための取組みをしています。

森林整備、地元産木材利用により、市内の産業、環境を守り、木の香り、ぬくもりに触れ、市民がふるさと感じる。そんな伊豆市を目指しております。

支部 だより②

森林価値の最大化を目指して ～天竜美林カーボンクレジット創出モデル事業～

浜松市 林業振興課

森林価値の最大化を目指すための森林由来のJ-クレジットの創出の取り組みについて紹介いただきました。

はじめに

浜松市の森林は市域の66%を占める約10万3千haの森林面積を有しています。約76%が私有林であり、そのうちの約77%が人工林という特徴を持っています。「天竜美林」と呼ばれる人工林は日本三大人工美林の一つに数えられ、美しい景観とともに、良質な木材の産地となっています。

浜松市の林業は江戸時代から始まり、「金原明善翁」が天竜川の度重なる氾濫の根を断つために取り組んだ明治時代の植林事業を経て、現在に至る歴史ある林業地です。

平成22年には、これまで受け継がれてきた森林が今後も継続して施業・管理されていくように、市内の6森林組合、市、県、国等で構成される「天竜林業振興協議会」にて「FSC森林認証」を取得し、林業施策の中心として、森林の価値の最大化を目指してきました。



▲FSC認証林(春野)

天竜美林カーボンクレジット創出モデル事業とは

「J-クレジット制度」とは皆さんご存じのとおり、適切な森林管理による二酸化

炭素の吸収量を国が認証し、市場等で取引できる制度です。当市も令和4年度から「天竜美林カーボンクレジット創出モデル事業」を開始し、制度の調査等を進めてきました。

その結果、まずはモデル的な取組として3つの森林組合がプロジェクトを申請することとなりました。今後は2024(R6)年度中のプロジェクト登録、2025(R7)年度8月以降のクレジット発行を目指していきます。

本事業の特色は以下の3点だと考えています。

1 FSC認証を最大限に活用

プロジェクトの対象地をFSC認証林とすることで、適切に施業された森林から創出されるクレジットを販売することができ、価格面で有利に働くのではないかと考えています。また売上の一部は森林所有者、森林組合へ還元され、更なるFSC認証林の整備に活用される予定です。

2 私有林でのトライアル

浜松市は私有林の面積が広く、適切な森林施業が長年行われてきたことや、今後の横展開を期待し、市有林ではなく私有林をプロジェクトの対象地としました。

森林所有者への説明等の事務作業は増えてきましたが、森林組合との連携により、スムーズに事務を進めることができました。(FSCにも所有者の承諾が必要であ

り、森林組合が類似の事務に慣れていたこともプラスに働いたかもしれません。)

3 森林組合が主役

森林組合をプロジェクト実施者、協議会を共同実施者とすることで、施業履歴の管理や現場での作業を森林組合、申請書作成等の事務を協議会というように分担し、作業を効率よく進めることができました。また販売時には3組合分のクレジットを合計して取引できるといった、スケールメリットを見込むことができます。



▲間伐が行き届いた森林(熊)

今後について

近年、クレジット取引の動きは活発化しており、令和6年6月時点でのJ-クレジットの認証量は1,042万t-CO₂(森林由来は62.7万t-CO₂)※となっています。クレジット創出に関する取組は今後も増えていく見込みです。

今後はブランディングや他地域との差別化が重要となるため、当市としても「FSC認証林からのクレジット」という特長を積極的に活用し、販売につなげていきます。

また、クレジットはあくまでも木材の販売ツールと考えています。クレジットの販売に併せた天竜材の周知・活用を促進し、天竜材の販路拡大や更なる森林整備の推進を最終的な目標として、森林価値の最大化を目指していきます。

最後に、J-クレジットの申請準備に際し、県森林計画課主査のご指導に感謝申し上げます。

※「出典 J-クレジット事務局ホームページ J-クレジットの統計資料」

県庁 だより

生物多様性保全の推進

くらし・環境部 環境局 環境ふれあい課

生物多様性保全のために自然共生サイト拡大に向けた取組などについて紹介いただきました。

はじめに

2022年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議(CBD-COP15)において、2030年までの新たな世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。その中でも注目されるのが、2030年までに陸域・海域の30%以上において健全な生態系を保全する30by30(サーティ・バイ・サーティ)目標です。

この目標を達成するため、自然公園等のように法律等で規制された保護地域(令和3年時点で、日本の陸域20.5%、海域13.3%が該当)の拡張だけでなく、企業の森や里地里山など「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を自然共生サイトとして認定する取組を、令和5年度に環境省が開始しました。認定区域は、保護地域との重複を除き、OECM(Other Effective area-based Conservation Measures)として国際データベースに登録されます。

登録地	面積 (ha)	申請者
1 麻機遊水地 (静岡市葵区)	114	麻機遊水地保全活用推進協議会
2 井川山林 (静岡市葵区)	24,372	十山株式会社
3 富士通沼津工場 (沼津市)	42.2	富士通株式会社
4 あざひ・いのちの森 (富士市)	1	旭化成株式会社 旭化成ホームズ株式会社
5 住友ベークライト株式会社 静岡工場ビオトープ 憩いの社 (藤枝市)	1.2	住友ベークライト株式会社
6 住友不動産の森 (裾野市)	185	住友不動産株式会社
7 サントリー天然水の森 しずおか小山 (小山町)	170	サントリーホールディングス株式会社
8 リコー環境事業開発センター (御殿場市)	2.2	リコー環境事業開発センター
9 日立ハイテクサイエンスの森 (小山町)	3.2	株式会社日立ハイテク
10 富士山「まなびの森」 (富士宮市)	公表前	住友林業株式会社

▲県内の登録一覧

自然共生サイトの認定状況

自然共生サイトは令和6年9月時点で、全国で253か所が登録されており、県内では10か所が登録されています。

環境省のホームページでは、サイトごとに詳細な資料が掲載されており、例えば「住友ベークライト株式会社静岡工場ビオトープ憩いの社」では、地域の絶滅危惧種であるミナメダカや古代ハス(大賀ハス)、ヤマトタマムシなど多種多様な動植物の生息や、ビオトープ保全を中心とした地域連携の取組が紹介されています。

自然共生サイト拡大に向けた取組

県は、里地里山の再整備により生物多様性を保全・再生した榛原ふるさとの森(牧之原市)25haにおいて、自然環境調査を実施し、令和6年9月に自然共生サイト認定を申請するとともに、希少動植物等の保全に必要な環境整備に取り組んでいます。

また、本年度、生物多様性の保全や、

自然共生サイト認定に関する、企業等の意識調査を実施したところ、「森林や、ビオトープなど生物多様性の保全に配慮した土地を所有」と回答した企業等の



▲確認された希少種(サンコウチョウ)

約9割が認定に興味を示しましたが、課題として「情報不足」や「認定ハードルの高さ」を挙げており、認定に向けた情報の提供や、支援が必要ということがわかりました。

このため県では、9月には、企業等に派遣する自然共生サイト認定・管理アドバイザーの候補者に対する研修会を開催し、16名を育成しました。今後は、自然共生サイト認定を目指す企業等に派遣していく予定です。

11月には、県内3地域で生物多様性セミナーや、現地見学会(2回)を開催する予定です。



▲アドバイザー現地研修会

おわりに

県は、「ふじのくに生物多様性地域戦略」に基づき、2030年度までに健全な生態系を保全する地域を県土の30%以上に拡大するため、保護区域の拡張と保護地域以外の「自然共生サイト」の認定取得に向けた支援に取り組みます。

県の取組やセミナーの開催等については、県ホームページで発信します。相談窓口も開設していますので、お気軽にお問い合わせください。

静岡県環境ふれあい課

電話番号 054-221-2848

本報

県への要請活動

山林協会では、静岡県森林組合連合会、静岡県木材協同組合連合会、静岡県山林種苗協同組合連合会、静岡県椎茸産業振興協議会、公益社団法人静岡県林業会議所と連携して、10月8日に、令和7年度森林・林業施策に係る要請を、県の関係部長等に対して行いました。

当協会からは、「気候変動等に対応した森林整備・治山対策の推進」、「カーボンニュートラル実現等に資する森林・林業施策の推進（広葉樹林の未利用資源の活用等）」、「持続可能な林業のための森林・林業イノベーション等の推進（集約化、境界明確化の促進等）」、「林業を支える人材の確保支援（外国人材の受け入れ検討等）」、「森の力再生事業」と「森林づくり県民税」の継続」の5項目を要請・提案しました。



▲経済産業部への要請



▲経済産業部長へ要請書を手交



▲くらし・環境部への要請



▲くらし・環境部長へ要請書を手交

林業雇用改善セミナーの開催

林業経営体における雇用管理改善により、従業員の職場定着や新規の就業促進を図るため、「林業雇用改善セミナー」を9月27日に静岡市内で開催しました。セミナーの内、“雇用セミナー”では、(株)サンライフ 代表取締役 水野喜文氏から「魅力的な職場」をベースにチャレンジを続ける「サンライフ」について御講演をいただき、また、“雇用管理改善研修会”では、中小企業福祉労務協会清水事務所の一ノ宮氏から「これからの労働力確保」について御講演いただき、併せて“雇用管理改善に関する相談会”を開催し、参加者からの質問、相談に対応しました。



▲雇用セミナー



▲雇用管理改善研修会

本 部 情 報

林業への就業支援の取組

9～10月の主な取組は以下のとおりです。

○森林の仕事ガイダンス

9月21日、22日に、全国森林組合連合会主催の「森林の仕事ガイダンス」が東京都内（東京国際フォーラム）で開催され、本県もブースを出展し、静岡県の魅力を発信するとともに、仕事の内容などの説明・相談に応じました。



▲森林の仕事ガイダンス 東京

○林業就業支援研修

10月16日から25日（8日間）に、「林業就業支援研修」を県森林・林業研究センター（浜松市浜北区）で実施し、4名の方がチェーンソーや刈払機の資格を取得するなど修了しました。



○しずおか森林の仕事ガイダンス

10月14日に、就業相談会「第3回森林の仕事ガイダンス」を静岡市清水区内（清水テルサ）において開催しました。県内外から52名の参加があり、新規採用を予定している経営体19社やハローワークなどが、仕事の内容などの説明・相談に応じました。



○林業の仕事インターンシップ

林業への就業を考えている方を対象に「林業の仕事はどんなことするのだろう?」「自分でもできるかな?」といった不安や疑問に答えるために、林業の仕事体験や職場見学などを実施する林業経営体の受入れに要する経費の助成や、参加者の宿泊費に対する助成を行っています。

本年度は12社がインターンシップを受入れており、10月までにのべ18名が参加し、「できれば就職を検討したい」といった感想が寄せられています。



▲インターンシップ 株式会社フジタカの森

11～2月は、下記のとおり仕事見学会等を予定しています。

詳細は、しずおか林業就業支援サイト「森林(もり)ナビ」でご確認ください。 <https://www.morinavi-shizuoka.net/>

① 第2回しずおか森林の仕事見学会

内 容：伐採現場や丸太市場、製材施設などを見学します。
日 時：令和6年11月30日(土)
場 所：島田市内
募集定員：15名程度
募集期限：令和6年11月22日(金)

② 第4回しずおか森林の仕事ガイダンス

内 容：林業への就業を希望する方を対象とした就業相談会です。
日 時：令和7年1月18日(土)
場 所：浜松市中央区内（クリエート浜松）

③ 第3回しずおか森林の仕事見学会

内 容：伐採現場や製材施設などを見学します。
日 時：令和7年2月1日(土)
場 所：浜松市浜名区内（予定）
募集定員：15名程度
募集期限：令和7年1月24日(金)

経済産業部 森林・林業局 森林計画課

1 はじめに

静岡県では、平成18年度から「森の力再生事業」による荒廃森林の再生に取り組んでいます。

令和6年度で19年目を迎えた本事業のこれまでの取組事例や成果などを、全4回に分けて紹介します。

第2回となる今回は、「森の力再生事業」によってもたらされる、様々な波及効果を紹介します。

2 発生した木材等の有効活用

伐採した木材や竹材は、土砂の流出を抑えるよう、林内に整理して敷き並べるほか、簡易的な土留め構造物の材料として現地で活用しています。

また、運び出せる木材や竹材については、可能な限り林外へ運び出し、利用しています。これまでの18年間における搬出材積は約25万 m^3 であり、これは



▲伐採材の林内活用（簡易土留め）



▲積極的な林外搬出に努めています

木造住宅約6,300棟分に相当します。

3 林内路網の整備

現場条件に応じて、作業の安全性や効率性の確保を目的に、幅員がおおむね3m以内の簡易的な作業道を設置しており、18年間で約650kmを開設しました。

開設した作業道は、所有者らによる森林の管理のほか、木材の搬出作業等に活用することができます。事業を実施した所有者からは、「自家用車で行けるようになったので、今後は定期的に自分で手入れしていきたい」といった声をいただいております。管理意欲の向上にもつながっています。



▲開設した作業道

4 森林整備の新たな担い手

事業開始以降、NPO法人や造園・建設業者といった林業以外を主として活動する約50者が森の力再生事業の整備者として携わっており、異分野から森林整備分野への新規参入によって、新たな担い手が続々と誕生しています。

特に、建設業者は得意な土木工事技術を活用し、作業道の開設と森林整備を組み合わせ、効率的に事業を



▲建設業者による土木技術を活かした森林整備

を進めるなど、強みを活かして活躍されています。

また、森林整備等には技術力のあるスタッフが必要となるため、新たな雇用にもつながっています。

5 二酸化炭素の吸収

本事業で18年間に整備した約2万haの森林が吸収する二酸化炭素は、年間11.8万トンと推定されており、これは、自家用自動車の年間排出量（1台当たり約2.3トン）の約5万台分に相当します。

適切に管理された森林は、二酸化炭素の吸収源としてカーボンニュートラルの実現に重要な役割を果たしています。

6 まとめ

このように、本事業により、多彩な波及効果が生まれています。引き続き、県民の皆様のご理解、ご協力をいただきながら、荒廃森林の再生を着実に推進していきます。

<次回予告>

今回は、森林環境税（国税）による事業との役割分担や連携について紹介します。



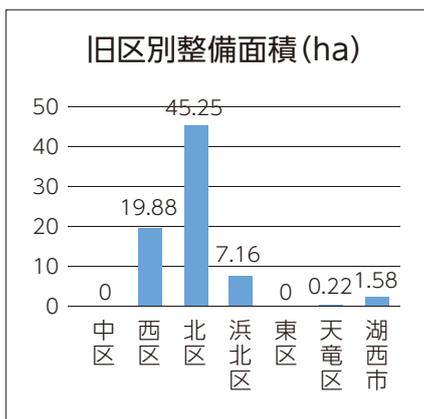
↑より詳しく知りたい方はこちらから

西部農林事務所 森林整備課

○西部農林(本所)の取組概要

管内(浜松市中央区、浜名区、湖西市)は、森林率25%、民有林人工林率50%で全県の割合(64%、59%)より低く、旧西区・北区を中心に竹林・広葉樹林が点在し、まとまった竹林も見られます。

このため、竹林・広葉樹林の整備を中心に、森林組合や地元の造園会社などが事業を実施しています。



▲本所の地区別事業実績 (平成18年度～令和5年度)

○これまでの取組成果

事例① 地元高校生による事業実施地の整備

聖隷クリストファー高等学校では、教育の一環として、同校が所有する学校林の整備を30年にわたって実施してきました。

新たな活動場所として、引佐町森林組合が整備した竹林(浜松市中央区神ヶ谷町、1.69ha)を活用したいとの要請が同校からあり、土地所有者である神ヶ谷町自治会も快諾し、若竹刈りなどの維持管理作業への生徒の参加が実現しました。

参加した高校生は、事業の意義や地域貢献の重要性を学ぶことができ、また自治会にとっては整備後の維持管理を若者の支援によって、継続的に進めることができた好事例となりました。



▲聖隷クリストファー高生による竹林伐採後の維持管理作業



▲若竹刈りの様子

事例② 市道周辺の整備

令和元年度に、湖西市立知波田小学校の通学路に隣接する林地において、市道へはみ出した広葉樹の大径木や竹を除去する伐採0.58haを株式会社朝倉工務店が実施しました。

本件は倒木の危険のみならず、防犯や不法投棄の課題解決にも寄与しており、事業の波及効果も大きい好事例となりました。



▲湖西市大知波の通学路(整備前)



▲湖西市大知波の通学路(整備後)

○市街地森林の今後

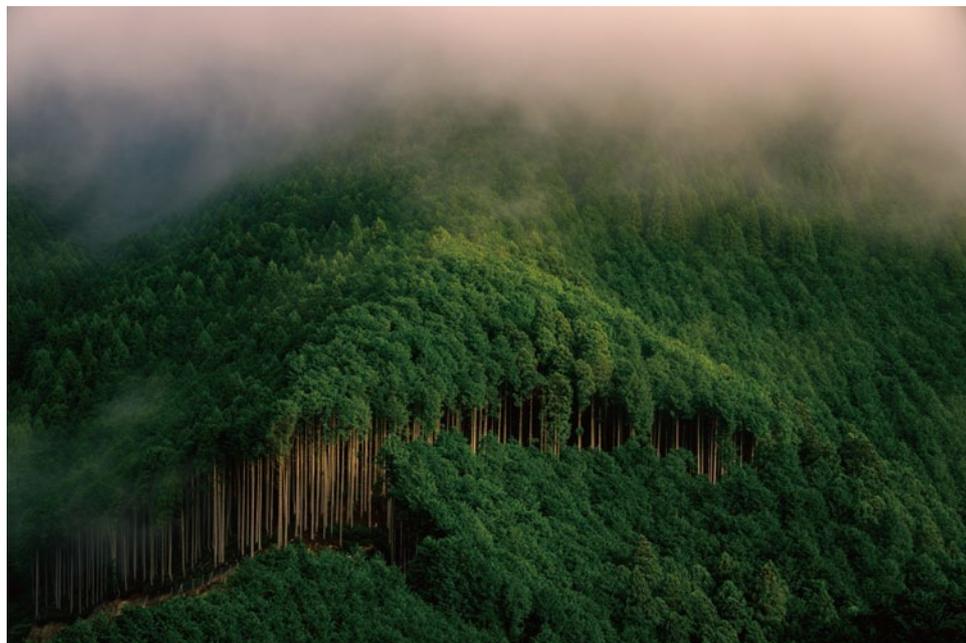
放置竹林や未整備森林は、市街地において生活環境を悪化させるだけでなく、近年は野生鳥獣の棲み処となり諸被害の発生を助長することも懸念されます。

また、高齢化や夏の高温化等が進み、所有者自らによる管理や、地域・ボランティア団体等による支援には限界があることから、「市街地森林の整備・管理による生活環境の維持」は、新たな地域課題となることが予想されます。

当所では、地域一体となった取組をPRするなど竹林整備の課題解決の方向性を示していくとともに、各市が取り組む森林環境譲与税を活用した事業と連携して、地域課題の解決に取り組んでいきます。

第41回

しずおか森林写真コンクール受賞作品



最優秀賞

森林の目覚め

浅井 貴章(磐田市) 撮影地:富士宮市麓 ふもとつばらキャンプ場



審査講評

審査委員長
竹林 喜由

今年度の応募につきましては、応募点数289点、応募者数115名(前年度272点、98名)と前年に比べ応募点数、応募者ともに増加してきており、新型コロナの影響もほぼ解消されたためかと思われます。

今回は、去る9月24日に8名の審査員により審査が行われました。

応募作品は内容的にはレベルの高い作品が多いと感じましたが、一部の作品は色補正を強くし過ぎて自然の色調を壊してしまった作品も見受けられました。

また、データーの合成による作品やコンクールの趣旨にそぐわないものも散見されましたので、応募規定などをご確認のうえご応募くださるようお願いいたします。

最優秀賞(静岡県知事賞)は、浅井貴章氏の「森林の目覚め」に決定しました。

富士宮市ふもとつばらキャンプ場での撮影。朝日が差し込んだ森林の緑が美しく、朝霧が立ち上る絶好のタイミングで撮影しています。画面構成も良く朝のすがすがしさも伝わってくる気持ちの良い写真になっています。

特選(静岡県山林協会長賞)は、平井敏夫氏の「ひのきの森に朝日が照らす」阪本森人氏の

「ライチョウの親子」、同(静岡県グリーンバンク理事賞)牧野光伸氏の「丸太早切り競争」に決定しました。

「ひのきの森に朝日が照らす」富士市桑崎での撮影。題名はひのきの森に朝日が照らすとなっていますが、伐採された材木とバックの富士山が存在感を際立たせています。切り出された材木とバックの森のつながりが明確に伝わる力強い作品です。

「ライチョウの親子」静岡市葵区田代、南アルプス仁田岳での撮影。分布の世界南限といわれる地域の一角との説明があります。通常は5~6羽の雛が生まれるが、すでに1羽残るのみで作者は兄弟の分まで生きてほしいと願いシャッターを切っています。自然のライチョウの親子を的確な距離とアングルで撮影している技術力も秀逸です。

「丸太早切り競争」浜松市天竜区龍山町戸倉で行われた産業祭での撮影。コロナで中断されていた丸太の早切り競争が復活して、行事の様子が伝わってきます。若い二人の女性が大きなこぎりを引いて奮闘する場面が真正面から捉えられており楽しさと微笑まじさが伝わってきます。カメラアングルとタイミングの良さが感じられます。

準特選(静岡県山林協会長賞)は、室伏淳史氏の「黄色に輝く」、半田光志氏の「木立と朝霧と太陽と」、望月正晴氏の「涼を求めて」、窪田隆氏の「緑さわやか」、同(静岡県グリーンバンク理事賞)石垣清俊氏の「しめ縄の掛け替え」に決定しました。

「黄色に輝く」静岡市駿河区での撮影。黄

色に紅葉したイチヨウの木を真下から見上げて撮影しています。画面全体が黄色一色で力強い絵になっています。イチヨウの葉の散った落ち葉も見ものでしょう。

「木立と朝霧と太陽と」浜松市天竜区瀬尻での撮影。霧のかかった林の中に朝日が差し込み、木々の間を美しい光忙が広がっています。太陽を画面の中央に入れて光を四方に拡散させており、力強い作品になっています。撮影技術も高く、絶好のチャンスをものにした一枚です。

「涼を求めて」富士市須津渓谷での撮影。須津川の渓谷に作られた、砂防ダムは暑い夏には涼を求めて多くの人が遊びに来ているようです。砂防ダムの壁に流れ落ちる水が美しく描かれており、画面半分をしめるモミジの葉も効果的です。二人の人物も良いアクセントになっており涼しさが伝わってきます。

「緑さわやか」伊豆市での撮影。ふなの林なのでしょうが、早春の芽吹きごろの林の状況です。日本画を思わせるような木の幹と新緑の葉のみで作画しています。シンプルな画面構成により、春の空気感とすがすがしさが伝わる気持ちの良い作品になっています。

「しめ縄の掛け替え」静岡市葵区の浅間神社での撮影。樹齢千年以上の天然記念物の楠の木に新年を迎えるためにしめ縄を掛け替えている様子です。落雷による幹の中心に大きな穴が開いており、長い歴史を生き続ける楠の木と人間の暮らしが表現されています。

この他に入選17点が選ばれましたが、いずれも力作でどれが入賞してもおかしくない作品ばかりでした。来年も多数の力作の応募を期待いたします。



特選

ひのきの森に朝日が照らす

平井 敏夫(富士市)
撮影地: 富士市桑崎 ひのきの森



特選

ライチョウの親子

阪本 森人(浜松市)
撮影地: 静岡市葵区田代



特選

静岡県
グリーンバンク

丸太早切り競争

牧野 光伸(浜松市)
撮影地: 浜松市天竜区龍山町戸倉



準特選

黄色に輝く

室伏 淳史(富士宮市)
撮影地: 静岡市駿河区



準特選

木立と朝靄と太陽と

半田 光志(浜松市)
撮影地: 浜松市天竜区瀬尻ウヅカ



準特選

涼を求めて

望月 正晴(静岡市)
撮影地: 富士市比奈 須津溪谷



準特選

緑さわやか

窪田 隆(川崎市)
撮影地: 伊豆市



準特選

静岡県
グリーンバンク

しめ縄の掛け替え

石垣 清俊(静岡市)
撮影地: 静岡市葵区 浅間神社

入 選



木立ち

中沢 力男(浜松市)

撮影地: 浜松市天竜区春野町 天竜スーパー林道



高性能林業機械

柚木 孝文(静岡市)

撮影地: 浜松市天竜区春野町



霧氷の森

山下 多津美(静岡市)

撮影地: 裾野市水ヶ塚



神楽響く森

小沢 大介(藤枝市)

撮影地: 浜松市天竜区勝坂



林に白いジュータン

清水 輝美(浜松市)

撮影地: 浜松市天竜区春野町 胡桃平



山林越しの白銀富士

宮崎 泰一(富士市)

撮影地: 富士宮市山宮



大地をつかみ、私の心もわしづかみ

村山 英人(森町)

撮影地: 周智郡森町薄場 林道脇



錦秋の森林鉄道

伊賀 誠(島田市)

撮影地: 榛原郡川根本町梅地 関の沢展望台から



棚田の秋

鈴木 信子(森町)

撮影地: 浜松市天竜区大栗安

入選



夕棚田

手塚 光次(掛川市)
撮影地: 菊川市 せんがまの棚田



森の香漂う初夏の朝霧

細澤 達弥(浜松市)
撮影地: 静岡市葵区水見色



匠の芸術

吉田 拓矢(小田原市)
撮影地: 駿東郡小山町



荒原に育つ

飯田 龍治(御殿場市)
撮影地: 富士山御殿場口新五合目



霧に包まれて

相羽 強(森町)
撮影地: 島田市川根町家山



伐採を終え搬出へ

飯田 政巳(磐田市)
撮影地: 浜松市天竜区神沢



秘境の紅葉つり橋

藤ヶ谷 康平(静岡市)
撮影地: 静岡市葵区田代 畑薙大吊橋



【組写真】災害復旧工事

中村 茂久(浜松市)
撮影地: 浜松市天竜区龍山町西川

令和6年度 治山・林道等コンクールの優秀工事 (12工事)

山林協会では、治山・林道・森林整備等工事の中で、優れた工事を顕彰し、施工技術の向上等を図る「治山・林道等コンクール」を毎年実施しています。

今年度も各県農林事務所から推薦をいただき、審査の結果、治山工事の部9件、林道工事の部2件、森林整備等工事の部1件に対して山林協会長賞を授与することとし、10月25日(金)に静岡市内で表彰式を行いました。

表彰された工事は、急峻な地形や厳しい気象環境など施工条件が厳しい場所で、いずれも作業員の安全確保に十分配慮しながら、高い技術力を発揮された工事であり、工事関係者の皆様の日頃からの御努力の成果が表れていることが高く評価されました。

受賞の皆様

◎治山工事部門



西伊豆貨物自動車 株式会社
賀茂郡松崎町雲見



原田建設 株式会社
伊豆市田沢



株式会社 鈴木組
伊豆市上船原



株式会社 新村組
静岡市葵区梅ヶ島



株式会社 中山建設
藤枝市瀬戸ノ谷



徳山建設 株式会社
榛原郡川根本町徳山



塚本建設 株式会社
袋井市中新田



株式会社 鳶宗建設
磐田市福田中島



株式会社 飛鳥 静岡営業所
浜松市天竜区龍山町瀬尻



◎林道工事部門



五味建設 株式会社
賀茂郡松崎町岩科北側



土屋建設 株式会社
沼津市戸田

◎森林整備等工事部門



赤堀産業 株式会社
浜松市浜名区尾野ほか

◎優秀工事一覧

部門	受注者名	施工場所	工事名
治山工事	西伊豆貨物自動車 株式会社	賀茂郡松崎町雲見	令和4年度治山(緊急)竹カラシ工事
	原田建設 株式会社	伊豆市田沢	令和4年度治山(予防)宮畑山工事
	株式会社 鈴木組	伊豆市上船原	令和5年度県土強靱化対策(治山)弁天平工事
	株式会社 新村組	静岡市葵区梅ヶ島	令和4年度治山(復旧)日影沢2工事
	株式会社 中山建設	藤枝市瀬戸ノ谷	令和5年度治山(流域保全)大久保・蔵田地区杉尾工事
	徳山建設 株式会社	榛原郡川根本町徳山	令和5年度県土強靱化対策(治山)上ノ山(4繰越)工事
	塚本建設 株式会社	袋井市中新田	令和5年度治山(防災林造成)中新田1工事
	株式会社 鷹宗建設	磐田市福田中島	令和5年度治山(防災林造成)福田中島工事
	株式会社 飛鳥 静岡営業所	浜松市天竜区龍山町瀬尻	令和4年度治山(緊急総合)ハサカ山工事
林道工事	五味建設 株式会社	賀茂郡松崎町岩科北側	令和5年度森林環境保全整備青野八木山線(4繰越)工事
	土屋建設 株式会社	沼津市戸田	令和5年度農山漁村地域整備交付金土肥戸田線1工区工事
森林整備等工事	赤堀産業 株式会社	浜松市浜名区尾野ほか	令和5年度観光施設整備事業費森林公園木橋等修繕工事



表彰式

